

# 第4学年 社会科 学習指導案

日 時 令和4年12月19日(月)

菊池市立七城小学校

教諭 村山 檀子

## 1 単元構想

単元名	住みよいくらしをつくる～水はどこから～（東京書籍 p 34～51）		
単元の目標	自分たちが使う水道水の用途や量、送られてくる経路、水源を確保するための取組などを具体的に調べ、自分たちの暮らしと水道水が、密接に結びついていることや、水道事業が、広い地域の人々の協力と努力によって、計画的に行われていることを理解し、自分自身の水の使い方について考える。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①水道水が送られてくる仕組みを正しく理解している。 ②水道水を安定して供給するために、様々な地域が協力し、計画的な取組がなされていることや、供給に関わる人々の工夫や努力について理解している。	①水不足の国や地域の水の使用事情と、自分たちが使用している水の使用状況を比べて、実情の違いから、疑問に感じたことを基に、学習問題について考え、適切に表現している。 ②水の供給に関わる人々の工夫や努力、苦労、思いについて理解したことから、節水が必要である理由や、節水のために自分ができることを考え、適切に表現している。	①水不足の国の実情を基に、自分の水使用の実態を振り返り、考えようとしている。 ②自分たちの使う水道水が清潔に、たくさん届くための仕組みや経路に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 ③節水など、より良い水の使い方について、自分事として捉え、積極的に取り組もうとしている。
<b>単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）</b>			
伝え合う学習を通して、自分たちが使用している清潔で安全な水を、安定して確保し、供給するために従事している人々の工夫や思い、苦労や努力などを理解し、水を大切に使用しようとする児童			
<b>単元を通した学習課題</b>		<b>本単元で働かせる見方・考え方</b>	
自分たちが毎日使っている水についてくわしく調べ、「4-1 環境ISOポスター」を作ろう。		水は、どのようにして供給されるのかに着目して、供給にかかわる人々や施設の工夫について調べたり、地域や自分たちの生活と関連付けたりすること。	
<b>指導計画と評価計画（5時間取扱い 本時4/5）</b>			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
課題発見	2	①水不足の国や地域の実態と、自分たちの水の使用の実態を比べ、自分たちが普段使っている水について関心をもつ。 ②自分たちが普段使っている水はどこからくるのか、学習計画を立てる。	【思一①】（発言、ノート）  【思一②】（発言、ノート）
課題追及	5	③水道管の役割について資料で調べる。 ④浄水場では、どんなことをしているのか、資料で調べる。 ⑤ダムはどんな役割をしているのか、資料で調べる。 ⑥水源の森にはどのような役割があるのか調べる。 ⑦下水処理施設について調べる。	【知一①】（発言、ノート） 【知一①】（発言、ノート）  【知一①】（発言、ノート）  【知一①】（発言、ノート）  【知一①】（発言、ノート）
新たな課題	2	⑧自分たちが普段使っている水について、これまでの学習を振り返り自分の考えをまとめる。 ⑨限りある水を使い続けていくために自分ができることを考え、ポスター作りをする。	【知一②】（発言、ノート） 自分たちが使用している水が、様々な人々の努力や工夫によって供給されていることを理解している。 【思一②】（発言、ノート） 自分たちができる取組について考え、友達の意見と比べながら表現している。

## 2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)
<p>本単元は、小学校学習指導要領第4学年の内容(2)にあたる。  「人々の健康や生活環境を支える事業について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、飲料水を供給する仕事の様子について理解し、調べたことや考えたことを表現することができる。」</p>
教材・題材の価値
<p>本教材では、生活に必要な水道水を確保するために、水道事業が広い地域の協力と人々の努力によって計画的に行われ、使った水は適切に処理されていることにより、人々は健康で快適に生活することができるということに気付かせたり、地域の水道事業に携わる人々の仕事を学習したりすることで、地域や自分自身の生活に関わる水について、より関心を高めさせることができる。</p>
本単元における系統
<div style="text-align: center;"> <div data-bbox="606 593 1029 672" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">3年「くらしを守る」</div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">↓</div> <div data-bbox="566 698 1129 824" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">4年 「住みよいくらしをつくる」 ～水はどこから、ごみのしよりと利用～</div> </div>
児童の実態
<p>単元の学習については、普段、自分たちが使用している水が、どのように供給されているのかという流れや仕組みについては、学校外での学習で既に知っている児童もいる。しかし、机上での知識にとどまり、そこに従事している人々の思いや努力などまで理解している児童が多いとは言えない。</p> <p>そのため、清潔で安全な水を毎日使い続けられるのはどうしてか、ということに疑問をもち、学習課題を設定し、主体的に追究していくことができるようにする。自分たちが使用している清潔で安全な水を、安定して確保し供給するために従事している人々の工夫や思い、苦労や努力などから、実感を伴う理解ができるようにし、水を大切にするための取組や、感謝の気持ちをもって使用することを、自分事として考え、実践につなげることができるよう取り組んでいきたい。また総合的な学習の時間での水の学習と関連を図りながら、体験学習等にもつなげていきたい。</p>

### 3 指導に当たったの留意点

#### ≪視点1：単元・授業デザインの工夫について≫

##### ア 学習者の視点に立った単元のゴールの設定と学習課題の設定の工夫

- ・ 自分たちが普段使う水についての理解を深め、学んだことをこれからの自分の生活に生かしていこうという態度を養うために、単元の導入で、「4－1環境ISOポスターを作ろう。」という単元のゴールを設定する。環境ISOについては、学校での取り組みを知っているので、改めて確認しながら、自分たちの生活につなげていく。

##### イ 児童に疑問（なぜ、どうして）が生まれる導入の工夫

- ・ 水不足の国の実態と、自分たちの水利用の実態（学校での使用量や、菊池市の一般家庭の使用量の資料など）を比べることで、大きな違いに気付かせ、自分たちが清潔な水を使い続けることができるのはどうしてか疑問をもつことができるようにする。
- ・ 視覚的に理解することができるよう、電子黒板等のICT機器を効果的に活用する。

##### ウ 児童に納得解（きっと、もしかしたら、なるほど）が生まれる展開の工夫

- ・ 調べる過程では、菊池市水道局からの資料や、菊池市の水の本等を活用し、自分の身近なところから学習をしていくことができるようにする。また、総合的な学習の時間との関連も図りながら、身近な川の水質調査などを行い、身の回りの水についての理解を深めることができるようにしていく。その際、ゲストティーチャーを招き、七城町の水の実情や使用の実態などについて学ぶ機会を設ける。

##### エ 児童に学びの自覚（分かった、もっと知りたい、次はこうしよう）が生まれる終末の工夫

- ・ 学んだことを実感するために、学校の水利用について改めて調べたり、家庭での水利用についても確認をしたりする。そして、それらの学びを踏まえて、学校や家庭に向けての節水などの呼びかけができるようポスター作りをする。
- ・ 自分たちにできることを話し合わせることを通して、これからの生活につなげることができるようにする。

#### ≪視点2：主体的な学びの基盤づくりについて≫

##### ア 対話力の育成

- ・ 形式的にペア学習やグループ学習を取り入れるのではなく、児童が「自分の考えを伝えたい」「友達の見聞も聞きたい」「みんなどう考えているか知りたい」と思ったタイミングを見計らいながら学習形態を工夫することで、より主体的な対話学習になるようにする。

##### イ 家庭学習の工夫

- ・ 自分の身の回りの水の利用について調べたり、家の人に尋ねたりして、身近な水の利用について関心を深めることができるようにする。

##### ICTの活用について

- ・ 単元の導入で、作成したスライドを用いながら視覚的に学習課題（言語活動）を示すことで、興味・関心だけでなく「調べてみたい」「知りたい」という知的な好奇心が生まれるようにする。
- ・ 電子黒板を使用して、全体で考えを共有する。

#### 4 ESDとの関連

##### ○この題材で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・相互性…毎日生活に使う水は、自然環境と密接な関係にあること
- ・有限性…水は無限にあるものではなく、限りある資源であること
- ・連携性…飲料水事業に関わる人だけが努力するのではなく、私たちがこれからのことを考えて努力していくことが大切であること。
- ・責任性…私たちが普段の生活から、節水などを心掛けるなど行動を変えていくことが大切であること。

##### ○この学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・批判的に考える力（クリティカル・シンキング）  
身のまわりの環境や水の未来について考えた行動をしているか、自分の生活を見つめ直す。
- ・未来像を予想して計画を立てる力  
限りある水を使い続けていくためには、これからどのような生活をしていけばいいのか考える。
- ・コミュニケーション力  
これからの生活や、環境を守る行動などについて、意見交流を通して自分の考えをつくりあげる。
- ・つながりを尊重する態度  
水の消費量が多いことや川や海の環境の変化については、地球規模の課題と密接に関わっているので、自分たちが変えていかなければならない。

##### ○この学習を通して育てたいESDの価値観

- ・世代間の公正  
これまで森や川などの環境を守ってきた人々の苦労や努力について知り、これから限りある水を使い続けていくためには、自分たちが考えて行動していくことが必要である。
- ・世代内の公正  
地域社会の一員としてよりよい生活環境を考えるだけでなく、地球環境も豊かになるような取組をしていくことが大切である。
- ・自然環境や生態系保全を重視する  
水の循環について知り、自分自身の行動が自然環境に関係していることを理解する。
- ・幸福感を大切にする  
いつでも安全な水を使うことができるのは、当たり前ではないことを理解する。

##### ○達成が期待されるSDGs

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 12 つくる責任つかう責任
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう